

暮らしの基盤「水」を届ける

—ルワンダ：災害や貧困に負けない村づくり—

社会課題

毎日の水汲みに2時間、食事は一日一食

1990年代の内戦以降、急速な経済発展を遂げ、「アフリカの奇跡」と呼ばれるルワンダですが、人口の8割が暮らす農村部は依然として貧困、安全な水やトイレの不足、感染症、そして気候変動の影響による自然災害など、複合的な社会課題に直面しています。

7割以上の家庭が一日一食しかとれず、子どもたちは慢性的な栄養不良に陥っています。また、女性や子どもが毎日長距離を歩いて行う水くみ作業は、身体的負荷のみならず、子どもたちが学校で学ぶ時間をも奪っています。



大きな荷物を頭に乘せて歩く村人 ©日本赤十字社

赤十字の解決策

住民が主体となって災害や感染症、貧困に立ち向かう村(モデルビレッジ)をつくります

水・衛生 水くみからの解放、衛生的なトイレの普及



- ・給水設備の設置・維持管理
- ・世帯向けトイレの改築、新設 など

保健・栄養 住民の健康状態や知識の向上



- ・野菜や豆の種子配付、家庭菜園の普及
- ・栄養指導、料理教室の実施 など

生計支援 収入源を確保し、住民の自立を促進



- ・家畜(牛、ブタ、ヤギ)の提供、普及
- ・貯蓄貸付組合制度の導入 など

緑化・防災 森を守り、自然災害に備える



- ・地滑り、土砂災害対策としての植林、緑化
- ・防災チーム、ボランティアの育成、研修 など

社会的なアウトカム

水くみ時間が 10 分に短縮！約 3,800 人の暮らしに大きな変化

第1期事業(2019-2025)では、対象地域の 11 か所に給水設備を設置し、女性や子どもが毎日往復2時間以上かけていた水くみの時間が、平均わずか 10 分まで短縮されました。日々の重労働から解放されただけでなく、学校に通う子どもたちの遅刻・欠席・中退数の減少にもつながりました。

第2期事業(2025-2030)では、新たな村を対象に、安全な水を安定して届けるための支援を継続していきます。



新しい給水場で水くみをする女性
©日本赤十字社

586 世帯に安心・安全な「トイレ」を建設。野外排泄がゼロに！

対象地域では、地面に穴を掘っただけの簡易的かつ安全面に不安のあるトイレが今も使用されています。第1期事業では、586 世帯に衛生的でプライバシーと安全が守られたトイレを建設。子どもや女性が安心して利用できるようになり、地域の野外排泄がゼロに。衛生環境も大きく改善しました。

第2期事業では、さらに 200 世帯を対象にトイレ建設を進める計画です。



丈夫な屋根と壁のある新しいトイレ
©日本赤十字社

「家庭菜園」の普及で、重度栄養不良の子どもがゼロに！

対象地域の 900 世帯すべてに野菜の種子を配布し、豆類や葉物野菜の栽培が広がりました。水アクセスの改善により乾季でも水やりが可能となり、住民は年間を通して野菜を摂取できるように。その結果、栄養状態が大きく改善し、対象村では重度栄養不良の子どもがゼロになりました。

第2期事業では、家庭菜園の普及に加え、各家庭がよりバランスの取れた食習慣を実践できるよう、栄養指導の強化にも取り組みます。



自宅の庭から伝統野菜を摘む
女性たち ©日本赤十字社